

証券市場から見たアベノミクス

日本経済新聞ヴェリタス編集部編集委員
前田昌孝

- *40年ぶりの大型相場
- *1万4700円で全員ハッピー
- *時価総額をGDPと比べてみる
- *旺盛な50〜70歳の消費マインド
- *異次元の緩和は異次元のリスク
- *アベノミクスはやばいかヤバいか
- *黒田日銀による国債買い占め
- *いくつかの不安材料
- *ガスパイプラインが引けない訳
- *引退世代にも可能な「三本の矢」



浅野 開会いたします。（拍手）今日はおなじみの前田昌孝さんに証券市場の話をしていただきます。タイムリングはベストに近いですが、去年春のときは「相場に転機は来るか」という演題で当時の平均株価は1万円前後だったかと思えます。その後、いったん反落した後、ここまで戻ってきました。今日午前中はまた高いようですし、前田さんにこれまでお話しただいてきた中でいちばんいい環境でしょう。

レジュメを拝見するとジャーナリストらしい切り口とかタイトルがいっぱいありますので楽しみにお聞きしたいと思います。今日は当初、パワーポイントを使うというお話だったんですが、それも、レジュメと同じ内容だということだし、それに前田さんは身振りも声も大きいです

から（笑）電気を消さずに明るいとこで目立つようにやっていたらどうかほうがいいと思って断念いただきました。それではよろしくお願います。（拍手）

前田 日本経済新聞の編集委員の前田昌孝でございます。私は今年の3月末まで3年間、日本経済研究センターに出席しておりまして、「エコノミスト」と書かれた名刺は本当に重かったです。日経センターの理事長は岩田一政で、それ以外にも日銀とか昔の経済企画庁、今の内閣府から出向になっている方とか、本職のエコノミストの方が何人もいらっしやあって、若い人も本職のエコノミストを目指しているような組織ですから、私のような不勉強な新聞記者が太刀打ちできるような環境ではないんです。